

強権人事で一部官僚が迎合

荒井達夫・千葉経済大学教授に聞く



あらい・たつお=1954年生まれ。中大法卒。人事院、参議院法制局・調査室を経て参院憲法審査会首席調査員(審議官級)など歴任。

キャリアシステム見直しを

参院選は自民党が単独で改選過半数を獲得し、大勝する結果に終わった。選挙期間中には安倍元首相が銃撃され死去する事件が起きたが、同政権では森友学園問題の公文書改ざんを始め、官僚が不正に手を染めるケースも散見された。歴代最長政権で「政と官」の関係はどう変わったのか、行政の組織・人事に詳しい千葉経済大学の荒井達夫特任教授に聞いた。

——参院選は自公の圧勝に終わりました。

与党の巨大化と野党の弱体化が更に進み、国会による行政統制が一層弱くなったと言える。

——安倍政権で「政と官」の関係はどう変わりましたか。

安倍政権のみならず、菅(義偉)さんが引き継いで相当に問題が大きくなった。日本の政・官の関係は本質的に変わらず、弱い内閣では官僚が政治を支配し、強い内閣では官が政に迎合して共生を図るという構造だ。

——具体的には。

例えば、最弱の内閣は旧民主党の時代だ。強そうに見えるがぼつと出で(政治)基盤がない。財務省を中心とする官が操縦していたように思う。

——安倍政権はどうでしたか。

第一次は、政と官の関係は以前とそれほど変わらな

かったが、幹部人事を二元的に管理する「内閣人事局」を2014年に活用し始めてから、官僚が大きく変わったと考えている。根っこから政権にべったりということではないが、表向き迎合するようになり、それが過度の「忖度」という形で表れた。

政の政策立案能力は元々、官僚に依存せざるを得ないが、官僚人事、それも指定職と言われるキャリア組の審議官以上のポストを強制的に縛ろうとした。従わないと昇進や(退官後の)再就職に響くからやむを得ず迎合する。大方は本心から政権のために働こうとは思っておらず、「政」にすり寄ったのは一部の取り巻きだけだ。

——いわゆる「官邸官僚」ですね。

結局、「行政の私物化」に走って、忖度や不祥事が増えた。「官僚統制」とは全く逆の方向だ。省ぐるみ

の公文書の改ざんなどは、歴史上あり得ないことだ。官僚の人事は本来、各省庁がそれぞれ独立して、新規採用から幹部を選抜する仕組みだ。入省から同じ事務次官を目指すから、省益の追求になってしまふ。国全体のことを考える仕組み

になっていない。それが内閣人事局で縛られたものだから、古いキャリアシステムが変な形で作用してしまふ。森友学園の決裁にしろ、菅首相の長男による官僚接待にしろ私物化の典型だ。ノンキャリアの多くは全く支持していない。

監視の機能を議会に

——歴代最長政権が官僚機構に与えた影響は大きいのでは。

安倍さん自身の責任というのには酷で、森友学園問題は首相容弁がきっかけだったが、その前に夫人や取り巻きの官僚が先走って動いたことが大きい。「無言の村度」だ。周囲に「それはまずいですよ」と進言する雰囲気があればよかったが……。

——政権の意向に合わせる形で、官僚が制度をゆがめて運用した。

人事院や会計検査院ですらそうだ。黒川弘務東京高検検事長(当時)の定年延長を巡って、人事院は今までの法解釈を翻し、検察官の勤務延長を可能とした。

いけない。

一つはキャリアシステムの見直しで、明治以来の古い制度を廃棄しないといけない。今は総合職、以前は「上級甲種」と言ったが、公務員試験に合格すると各省庁の幹部候補としての扱いを受ける。古い官庁ほど人事制度を簡単に変えられず、結果的に政治に迎合する人が不祥事を起こす構造だ。キャリア職員が生涯をかけて事務次官を目指すシステムに最大の問題がある。

もう一つは国会中心の行政監視システムの構築だ。会計検査院や人事院は内閣から独立した機関という位置付けだが、機能していない。総務省には「行政評価局」があり、かつては「(総務庁)行政監察局」と言ったが、政策評価制度の成立によって一体になり「お荷物」扱いだ。これらを行政府から外して、国会

の監視システムとして組み入れるのが良い。国会の実態調査要員確保にも大いに貢献し、国会審議を劇的に変える可能性がある。

——地方行政は二元代表制で、議院内閣制とは異なりますが、「政と官」の関係で言えば似た部分もあります。改善に向けたヒントはありますか。

地方行政は大統領制に近く、議会そのものが監視機関だ。権力は分離しているから、本来は機能しやすいはずだが、実態調査できるマンパワーが不足している。国と地方の関係でも、中央省庁が法を誠実に執行しない影響は大きい。例えば情報公開法や個人情報保護法もいい加減に運用すると、地方も「この程度でいいや」と波及する。まずは法の誠実な執行を監視する仕組みを作ること、地方行政にもいい影響が出ると思う。